

## 2005年5月15日の日記 Part 1

ハロー、みんな、日記の最新版を送るよ！

この前日記を書いてから、まただいぶたちやっでごめん。言うまでもないけど去年は一番忙しい年だったんじゃないかな。かなりきつくてストレスが多かったけど、やっと今だいぶリラックスして皆にいろいろ話す気持ちになったんだ。

前の日記は“グランド・ホテル”のところまでだったよね。この作品はたぶんプロとして最高の経験の一つだったと思う。僕がいつも慣れてるのは全く違うミュージカル・スタイルで俳優たちと仕事をしたからね。監督のマイケル・グランディッジとはとてもいい関係を築けたし、俳優の皆と仕事するのはとても楽しかった。今まで俳優と仕事をしたことがなかったから、ちょっと心配だったけど、ダンサーも何人かいたからだいぶ助かった。でも彼ら皆が使えるスタイルを見つけるのは、ちょっとしたチャレンジだったし、それ自体がショー全体の一つのテーマになっていたんだ。6週間ほどのかなり長いリハーサル期間があったけどタイトだったね。いくつかの場面以外は、文字通りほとんど始めから終わりまで、ショー全体に振り付けなければならなかったから。つまりこの作品はこれまで僕が振り付けてきたミュージカルより、かなり大きなものだった訳だけ最高だったよ。ミュージカルで舞台と振り付け両方をこなすのと違って、振り付けだけできたのは本当に楽しかったな。いろんなことがすぐはっきりと見えるからね。振り付けだけに専念できるのは最高だった。6週間のリハーサルはとても楽しかった。レスターでの“雨に唄えば”公演の後すぐだったから準備する時間はあまりなかったんだけどね。ほぼ1週間だったけど大丈夫だった。本当に素晴らしい経験だった、最高だよ。

ものすごく変だったのは初日が明けてすぐに“グランド・ホテル”の仕事から離れなければならなかったこと。初日の日に“リエゾン（危険な関係）”のリハーサルを始めたからなんだ。つまり“グランド・ホテル”から“リエゾン”への即切り替えで、またまたものすごくきつかった。でもこんなことって起こっちゃうんだね！初日を見てすぐ、気持ちがそこから離れて他の全く違うものに集中するのはすごくおかしな感じだったよ！“リエゾン”にも良くなかったしね。リハーサルを始める前にできるだけきちんとした形に仕上げておきたかったし、そのためにかなりの時間が必要だったんだけど、去年の僕のスケジュールではそんなこと不可能だったんだ。だから、そのまますぐ“リエゾン”に取

りかかった。週末の間、レズ（ブラザーズトン）と僕とサラはリハーサル前の数週間にどうやって進めていくか話し合っていたから、なんとかギア・アップしてスタートにこぎつけた。キャストは全員揃っていたし、皆、最高だった。あれだけのキャストを揃えられて本当にハッピーだったね。

“リエゾン”は僕の人生で最もハードな作品だったんじゃないかな。今まで一度もほとんど一人きりで全幕ものを監督したことはなかったからね。かなりのプレッシャーと、スタジオの中だけでなく外でも相当量の仕事があつてまさに地獄だったよ。振付家、プロデューサー、ダンサー全てをこなすという重圧で僕は本当にボロボロだった。

ロンドンでのリハーサル期間はクリスマス休暇をはさんでほぼ5週間。つまりクリスマス前に3週間半ほど、その後5日間のオフ、また再開して1週間半、そして2, 3日のお正月休み。とにかく、ものすごい緊張、ものすごいストレス、ものすごいハードワークだったから、日本行きの飛行機に乗るのが本当に待ち遠しかった。少なくとも24時間の旅行中は、なにもかも忘れていられるからね。

**Part 1 終了。**

次はアダムが“リエゾン（危険な関係）”日本公演について語ります。

**Coming soon !**